

農家を冬の出稼ぎから解放したい

水野 豊造

1898 (明治 31) 年7月 16 日—1968 (昭和 43) 年2月 16 日



チューリップ栽培の技術を確立

富山県花卉球根農業協同組合を設立

日本初のチューリップ新品種を登録

体が弱かった少年時代

豊造は東砺波郡庄下村矢木(現砺波市)の農家に長男として生まれましました。家は貧しく、北海道へ移住しよう

かと考えるほどでした。また、身体が弱く、他の若者のように出稼ぎ*で家計を助けることができませんでした。

豊造は「出稼ぎに行かずに生活できないだろうか」と考えていました。

稲刈り後に球根を育てる

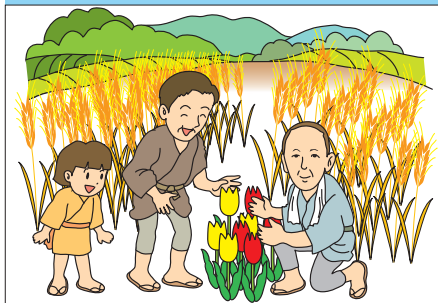
ある日、豊造は種屋のカタログでチューリップを知り、栽培してみることにしました。当時、チューリップの花は珍しく、高い値段で売れました。球根はさらに高く売れることに気がついた豊造は、仲間を誘って稲刈り後の田で球根を育てる方法を研究。砺波の気候や土壌に適していたこともあり、球根をつくる農家は

増え、アメリカへ輸出するまでになりました。

戦後には、県花卉球根農業協同組合を設立。たくさん球根を栽培できるようにした結果、富山県は球根の輸出量で日本一になりました。1951年(昭和26)年にはチューリップフェアがスタートし、翌年には豊造が開発した「天女の舞」など3品種が、日本で初めてのチューリップ新品種に登録されました。

夢や志をかなえたポイント

- 自分にあったやり方を見つける
- 仲間を増やす
- 大切なものを守り続ける



戦争中は、麦に隠すようにしてチューリップを育て、約150品種を守りました。

*出稼ぎ【でかせぎ】

ある期間、家を離れて働くことです。当時の農家では田畑が使えない冬の間、若者が出稼ぎに行くのが当たり前でした。